



# 橘 光顕さん(幾世橋)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 鍋嶋  
取材日：12月1日

## 自分のできることをやっていきたい



▲植樹した河津桜

高校まで浪江で暮らし、東京での演劇活動を経て、浪江に戻った橘さん。再スタートの道が開けた時に起きた震災。一時は歌うべき歌をなくしましたが、今は、上尾シラコバト団地で立ち上げた「東日本大震災に咲く会 ひまわり」の中心で活躍しています。

◆シンガーソングライターを浪江町から輩出したかった  
中学時代にギターを始め、友だちとバンドを組んでいました。高校までは浪江にいて、大学進学を機に東京で暮らし始め大学在学中から、演劇活動をやっていました。日比谷公会堂で主役を演じたこともありましたが、40歳の頃、体を壊して浪江に戻りました。高校時代には、浪江にも楽器を扱う店が3店舗ありましたが、40歳で戻った時には1店舗も残っていませんでした。これでは楽器を始めたくても始められない。ギターを始めるとの助けになりた。シンガーソングライターを浪江町から輩出できればと思うようになりました。様々な仕事に就いてお金を貯め、震災の年の春には、弾き語りコース以外に作詞作曲コースを併設する予定でした。フローリングの床にして、物はほとんど置かず、音が響くようにしました。今後、浪江に帰

岩手や宮城から避難して来た人たちも含めて多い時には、61世帯もの人たちがここで暮らしていましたが。震災から5年半を過ぎ、今は22世帯の人たちが暮らしています。避難して来てすぐの4月29日に、団地の自治会が歓迎会・激励会を開催してくれました。物が無い、情報がないといった状況の中で、ばらばらでは困りごとも解決できないと、その会に集まった避難者の15世帯で会を立ち上げました。毎年3月11日には、団地内で追悼式を執り行っています。河津

◆「東日本大震災に咲く会 ひまわり」の立ち上げ  
震災直後、避難指示を受けて津島に避難しましたが、避難所はいっぱい、川俣に行くと聞かれました。川俣の避難所も入れる可能性は低いと思、コンビニの駐車場で車中泊。葛尾村、福島市、会津坂下を経て、埼玉の友人宅にお世話になり、そこで県営住宅の募集を知りました。その友人が貸してくれたギターとバックひとつで入居しました。避難して来た当初、たまたまテレビの取材を受け、部屋には何も無いと話したところ、沢山の家電製品が集まりました。シラコバト団地自治会や私の友人から寄付してもらった日用品も含め、すべて自治会倉庫に置かせてもらい、希望者の部屋まで運びました。

◆自分ができることをやっていく  
震災後、半年くらいはギターを弾きませんでした。弾くべき曲がなくなってしまうからです。震災から半年たったころ、ギターが自分自身を呼んでいる様でした。9月には曲を書き始め、その後は湧き出るに任せ、今では90曲くらいになりました。演奏依頼があれば、出かけてオリジナル曲を披露しています。ここまでがんばれたのは、人の力だなと思います。「誰も助けてくれない」という声を聞くことがあるけれど、自分ができていることをやれば、周囲の人からの支えの手も出てきます。昨年からは、団地の夏祭りの実行委員長も引き受けています。埼玉県は、県内に避難中の被災者用に入居条件を緩和して、シラコバト団地だけでも50戸の入居募集を1月に行います。転入して来た人たちが安心して暮らせるように、「ひまわり」の活動を続けて行きます。



▲ギターを手に歌う橘さん

# 浪江のころ通信

●第68号●

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のころプロジェクト”が立ち上げられました。一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のころ通信」が編集・発行されます。

浪江のころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこたわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のころ通信」第68号への感想をお寄せください。  
【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地  
「浪江のころ通信」宛  
FAX.0243(22)4218







## 大平 美保さん(川添)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田  
取材日：12月24日

### 子どもには、いつか、 ママが育ったまちを見せたい



▲美保さんと莉愛ちゃん。親子で素敵な笑顔、ありがとうございました。

震災の年の12月に結婚され、今はいわき市内郷の宮沢団地で、ご主人と2歳になる娘の莉愛ちゃんと3人で暮らしていらっしゃいます。

陽の光がいっぱいに入るリビングや和室で、莉愛ちゃんは楽しそうに遊んでいました。これからの健やかな成長を心から願わずにはられません。

入らずに、車にいました。サイレンと共に津島への避難を呼びかけていた防災無線の放送を聞き、荷物も持たずに小学校の体育館に行きました。そこには友だちがいて、とても嬉しかった

◆避難中のさまざまな情報は、もっぱら彼や友人知人との携帯でした  
震災の時、私は21歳で、浪江町役場近くの「みよし浪江店」に勤めており、あの時刻にはお客さまもいなく、遅い昼食を摂っていました。その時、6号線傍の消防署から避難のアナウンスが流れ、実家に戻りましたが、外側は然程でもないのに、家の中は足の踏み場もないほど物が散乱してしましました。幸いにも水道も電気も止まらなかつたので何が起きたのかの状況を知ることができ、両親と弟、家族4人で相談し「ちよつとでも浪江から離れよう」と、その日の夕方には原町まで避難することにしました。

◆この団地は、以前の住まいよりは一寸不便だけれど、気に入っています  
夫とは以前から浪江といわきで離れていたこともあり、11月には私がいわきへ移り住むことにしました。結婚したのは12月でしたが、なかなか新居が見つからず、市内のアパートを一生懸命探し、ようやく住むことが出来ました。

◆この頃、両親と弟は本宮市の仮設住宅に入居しましたが、その1年後には、父が通っている谷病院にも、本宮駅にも近い場所に家を見つけて移りました。その後、弟は結婚し、今は二本松市に住んで、両親を見守ってくれています。うちの娘も含めて孫が3人になったので、両親にはとても励みになっていくようです。

◆避難指示解除後の思い  
浪江町荻野にある自宅はハクジンなどの動物たちに荒らされ、住める状態ではありません。ですが、娘の家が浪江にあり、そこは住めそうなので浪江に向いたとき借りて泊まれたら、と思っています。避難指示解除後は、様々な会合が浪江で開催されることになるでしょう。その時は、浪江に向き合いに出席し、友人知人と会っていろんな話がしたいですね。

◆忙しくも楽しかった食堂経営  
私は子どものころからスポーツが大好きでした。バレーボールは地域で「荻野クラブ」というチームを結成して楽しめました。町の大会で優勝したこともあったんです。サンプラザにあった運動教室にも通って、そこで友人がたくさんできました。その時の運動仲間から震災後に手紙が来ることもあり、つながりの大切さを感じているところなんです。



## 中里 恵子さん(加倉)

取材者：地域社会デザイン・ラボ 遠藤  
取材日：12月8日

### 家族の助け合いを実感、 いつかは食堂を再開できたら！



▲自宅のリビングで

震災前は、川添北上ノ原地区で「みどり食堂」を営んでいた中里さん。焼きそば、カツ丼、うどんなどが人気メニューでした。震災後は、お客様達が年に1度開いてくれる交流会「みどり会」が楽しみだそうです。平成27年5月からは、栃木県那須塩原市に自宅を新築し住んでおられます。

◆震災後は那須町に避難  
発災後は、津島で2日間過ごした後は那須町に移動。友人や従業員、親族と9人で避難しました。昨年、那須塩原市に引越すまで、約5年半以上那須町を生活の拠点にしてきました。現在は、娘と孫と一緒に暮らしています。夫は7か月間の闘病生活を経て、平成25年5月に他界。孫が時折「おじいちゃんには優しかったね」と思い出話をしてくれます。私の避難生活は、娘や親族が近くにいたり友人に恵まれたので、それほど苦労することはありませんでした。ただ、心残りなのは親戚や私の兄弟姉妹がバラバラになってしまったことです。浪江に住んでいた頃

◆この頃、両親と弟は本宮市の仮設住宅に入居しましたが、その1年後には、父が通っている谷病院にも、本宮駅にも近い場所に家を見つけて移りました。その後、弟は結婚し、今は二本松市に住んで、両親を見守ってくれています。うちの娘も含めて孫が3人になったので、両親にはとても励みになっていくようです。

◆忙しくも楽しかった食堂経営  
私は子どものころからスポーツが大好きでした。バレーボールは地域で「荻野クラブ」というチームを結成して楽しめました。町の大会で優勝したこともあったんです。サンプラザにあった運動教室にも通って、そこで友人がたくさんできました。その時の運動仲間から震災後に手紙が来ることもあり、つながりの大切さを感じているところなんです。

◆避難指示解除後の思い  
浪江町荻野にある自宅はハクジンなどの動物たちに荒らされ、住める状態ではありません。ですが、娘の家が浪江にあり、そこは住めそうなので浪江に向いたとき借りて泊まれたら、と思っています。避難指示解除後は、様々な会合が浪江で開催されることになるでしょう。その時は、浪江に向き合いに出席し、友人知人と会っていろんな話がしたいですね。

◆忙しくも楽しかった食堂経営  
私は子どものころからスポーツが大好きでした。バレーボールは地域で「荻野クラブ」というチームを結成して楽しめました。町の大会で優勝したこともあったんです。サンプラザにあった運動教室にも通って、そこで友人がたくさんできました。その時の運動仲間から震災後に手紙が来ることもあり、つながりの大切さを感じているところなんです。